

## 1、ZOOMによる会議を1か月1回開催

- \*会議前の役員会(松本副会長・岩出理事・立石委員長・吉本、清水副委員長)
- \*本委員会で3グループに分けるなどして意見交換をしやすくするなどの工夫

## 2、研修企画

今年度、集合研修(医療ケア児の教育)と懇話会を企画していたが新型コロナウイルス感染拡大に伴い集合研修は中止とし、以下活動実施中。

- **テーマ** :「小児訪問看護お悩み相談室」
- **目的** : ①小児ならではの悩みを知り、看護師が抱え込み過ぎないようにする  
②様々な内容、場面でどこに相談するかを解りやすくする
- **対象者**:大阪府訪問看護ステーション協会会員 ※事前申し込み者
- **研修方法**:パワーポイントによるQ&Aの動画撮影を行いYouTube配信  
2020年2月8日から配信予定 1週間配信予定
- **内容**
  - ① **環境と制度**・Q1 気管切開児保育園・幼稚園・こども園への通園は可能?  
Q2 保育園・幼稚園・学校に看護師はいるの?  
Q3 学校選択について支援学校・地域の学校どこに相談?  
Q4 通学支援について知りたい  
Q5手帳福祉用具購入・サービスについて知りたい  
Q6里帰り分娩時の訪問看護サービスの使い方  
Q7兄弟支援について
  - ② **子どもの成長発達**・Q1 気切児とのコミュニケーションの取り方  
に関する事 Q2新生児期・乳児期のリハビリ  
Q3成長による入浴法の変化とサービスのありかた  
Q4ミルクの哺乳や栄養に関する事

(現在作成中)

# 大阪府訪問看護ステーション実態調査(2019年度)報告

小児科医会懇談会用 2020年11月19日

(実施主体) 大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課  
在宅医療推進グループ(府委託事業)  
(委託) 一般社団法人 大阪府訪問看護ステーション協会

## ．調査の目的と方法

### 1. 目的

本調査は、大阪府内の訪問看護ステーションにおける訪問看護の現状と課題を把握することにより、今後の訪問看護の安定的な提供に向けた方策を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 調査対象

2019年4月現在、府で把握している大阪府内の訪問看護ステーション  
(2019年4月1日現在の近畿厚生局データより)

### 3. 実施方法

調査対象の訪問看護ステーションに対し、郵送により①調査票及び②WEB回答法の手引きを配布した。調査対象へは、できる限りWEBによる回答を依頼し、インターネットが使用できない環境である場合のみ、FAXでの回答を受け付けた。

4. 実施期間 2020年1月10日～2020年2月10日まで

### 5. 調査項目

- ・訪問看護ステーションの基礎的情報に関する事及び大阪府訪問看護推進事業に関する事
- ・基本情報については、2019年10月1日現在の状況を、利用者数や訪問看護サービスの算定件数などは、2019年10月度の実績数を確認した。

### 6. 実態調査の取扱

取得した情報は上記目的の範囲内でのみ利用し、集計結果の公表は、回答者が特定されないよう配慮を行った。

7. 調査票配布： 1263件 (宛先不明等で返送されたもの等6件は除く)

8. 回答数計： 840件 (回収率 66.5%)  
内訳は、WEBによる回答 704件 FAXによる回答 136件

次ページ以降は 小児訪問看護関連の結果を抜粋しています

ホームページ掲載中 (2019年訪問看護実態調査の結果)

<https://daihoukan.or.jp/wp-content/uploads/2020/08/2020-houmonkango-jittaiichousa-5.pdf>

## 小児訪問看護に関すること

### 1. 事業所の小児訪問看護の受入れ体制 [図 43]

○小児訪問看護の受入れ体制では、受入れ体制ありが236件(28.1%)、相談により受け入れる体制があるが186件(22.1%)で、両者を合わせると50.2%であった。

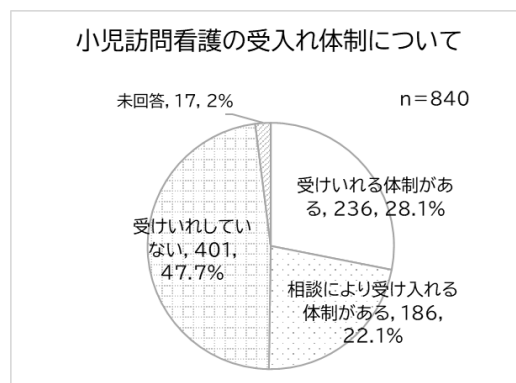


図 1 小児訪問看護の受入れ体制について

### 2. 小児利用者の有無 [図 44]

○小児利用者は、255件(30.4%)に小児利用者が存在していた。

※ここでいう小児は0才~18才までをいう。

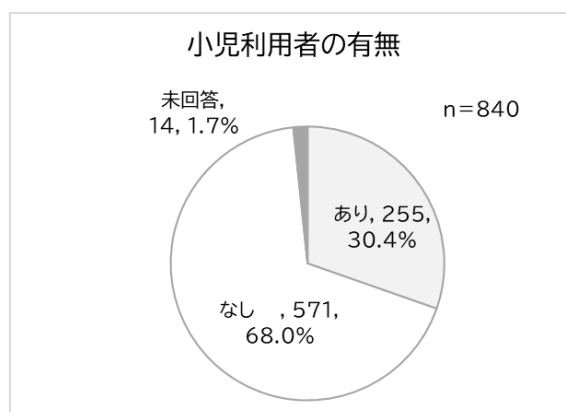


図 2 小児利用者の有無

### 3. 年齢区分別利用児数と呼吸器装着又は吸引が必要な児の比率 (年齢区分別)

#### 1) 年齢区分別の利用児数 [図 45]

○小児訪問看護利用児は合計で1669人であった。

○年齢区分では学童(6~12才)が最も多く、中学生以降で利用者数は減少していた。

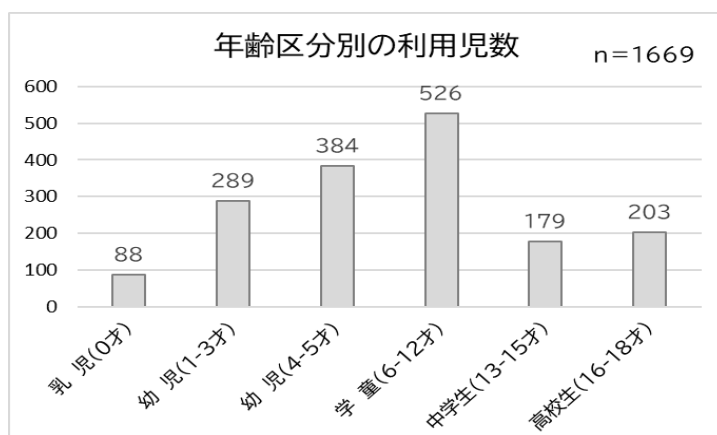


図 3 年齢区分別の利用児数

## 2) 呼吸器装着又は吸引が必要な利用児の数 [表 14]

- 小児訪問看護利用児のうち、呼吸器装着または吸引が必要な児は 424 人で、訪問看護利用児の 25.4%が呼吸器装着または吸引が必要であることがわかる。
- 年齢区分別でみると、乳児（0才）で呼吸器装着または吸引が必要なものが 15.9%であり、その他年齢区分では 24%～28.6%となっていた。

表14 年齢区分別利用児数と呼吸器装着又は吸引が必要な児の比率（年齢区分別）

	人数計 (再掲)	呼吸器装着又は吸引が必要な児		それ以外	
		n	%	n	%
全 体	1669	424	25.4%	1245	74.6%
(内 訳)					
乳 児 (0才)	88	14	15.9%	74	84.1%
幼 児 (1-3才)	289	74	25.6%	215	74.4%
幼 児 (4-5才)	384	110	28.6%	274	71.4%
学 童 (6-12才)	526	130	24.7%	396	75.3%
中学生 (13-15才)	179	43	24.0%	136	76.0%
高校生 (16-18才)	203	53	26.1%	150	73.9%

## 4. 支援学校との連携状況と連携の内容

- 小児利用者ありと回答した 255 件の事業所を対象に支援学校との連携状況について質問を行った。
- 支援学校との連携では、連携しているが 34.1%、特に連携していないが 60.4%であった。[図 46]
- 連携内容は電話や書面によるものが 57 件と最も多く、学校や行政機関が行う会議、訪問看護利用児宅でのカンファレンスと続いた。[図 47]

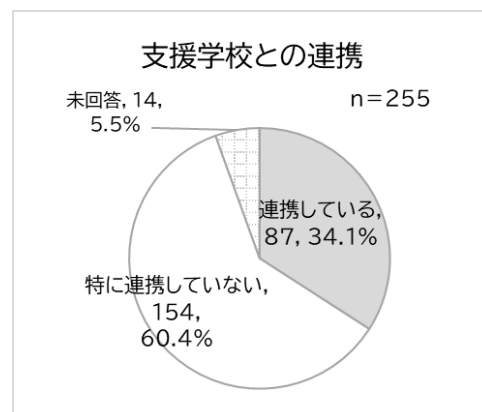


図 4 支援学校との連携

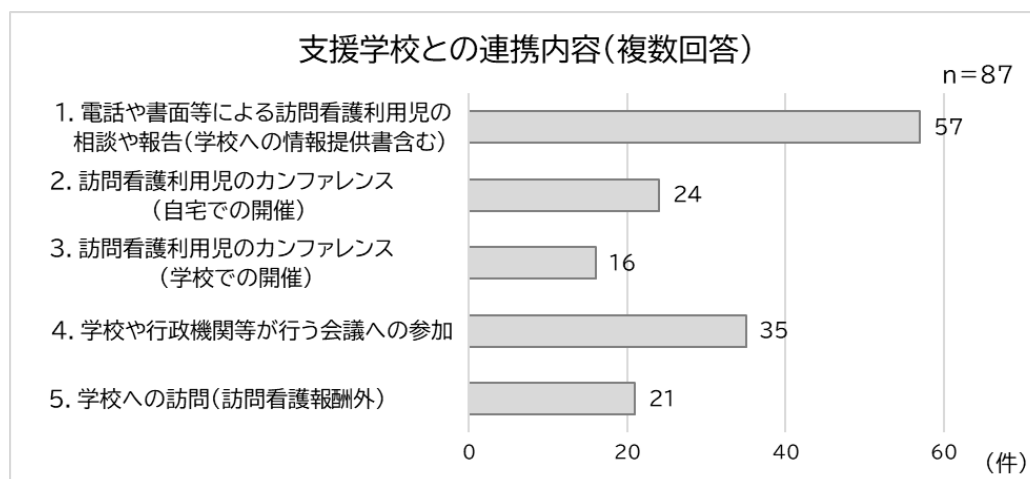


図 5 支援学校との連携内容(複数回答)

## 5. 地域学校との連携状況と連携の内容

- 地域学校と連携しているが 26.3%、特に連携していないが 65.9%であった。[図 48]
- 支援学校との連携状況と比較すると、わずかに連携していると回答するものが少なかった。
- 連携内容は、支援学校との連携と同じく、電話や書面によるものが 50 件と最も多く、学校や行政機関が行う会議や訪問看護利用見宅でのカンファレンスと続いた。[図 49]

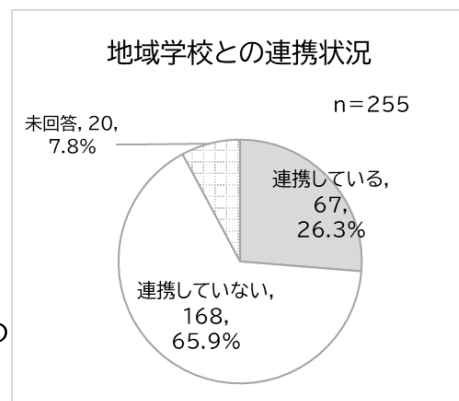


図 6 地域学校との連携

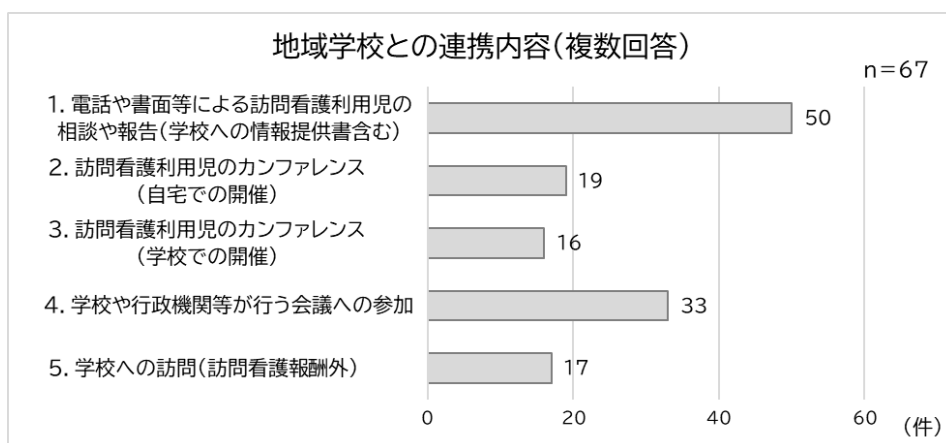


図 7 地域学校との連携内容(複数回答)

## 6. 「病気や障害をもつこどもの学校環境(通学含む)をよりよくするために必要だと思うこと」への意見(自由回答)

- 「病気や障害を持つこどもの学校環境(通学含む)をより良くするために必要だと思うこと」について自由回答による質問を行った。
- 得られた自由回答は 134 件で、内容別により分類を行った。表 15 はカテゴリと回答件数である。(※自由回答 134 件の詳細は、29P~30P を参照)

表 15 「病気や障害をもつこどもの学校環境(通学含む)をよりよくするために必要だと思うこと」 自由回答のカテゴリ分類と回答件数

カテゴリ	回答件数
1. 意識について	7 件
2. 研修・説明会等の機会について	13 件
3. 制度について	7 件
4. 訪問看護制度について	19 件
5. 学校の体制について	15 件
6. 学校看護師について	14 件
7. 通学支援について	15 件
8. 相談窓口の設置・調整者について	8 件
9. 情報共有と連携について	19 件
10. カンファレンスや会議の機会について	10 件
11. その他	7 件

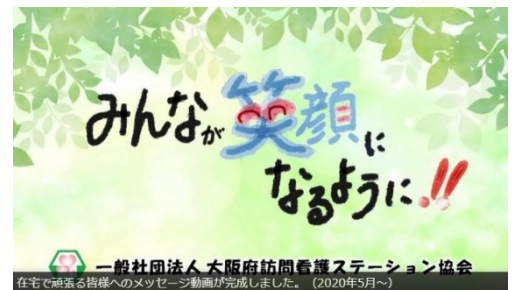
その他 当協会からの発行物など

◎2020年3月 発行

「みんなでかんがえ作り上げる  
人工呼吸器装着者の予備電源確保推進にむけた災害対策マニュアル」



◎2020年5月 「みんなが笑顔になるように」  
動画作成 ユーチューブ配信中



◎2020年10月 「訪問看護のご案内 2020」



◎2020年8月 広報誌ささえあい 総会号

11月 広報誌ささえあい 災害特集号

